

# つかさ会 会報



2020.4月

会員の皆さま、こんにちは。糖尿病内分泌内科医師の酒井です。世界中で新型コロナウイルスが猛威をふるっており心配事の絶えない日々ですが、体調など崩されていないでしょうか。感染拡大の影響をふまえ、5月17日(日)に予定していたつかさ会 春の講演会は中止、つかさ会総会に関しては、秋ごろに延期とさせていただきますことになりました。秋ごろには事態が落ち着き、皆さまにお会いできることを願っております。

さて、今月もさかえの内容をいくつかご紹介させていただきます。今月の特集は『持続グルコースモニタリング –血糖変動を把握する–』(P.7)です。近年、日々の血糖値の変動をモニタリングするための様々な機器が使用できるようになりました。それぞれの機器の特徴や使用上の注意点、糖尿病治療への活用方法がわかりやすく解説されています。従来、患者さん自身で行っていた血糖自己測定は、測定した時点の血糖値を知ることができますが、1日数回の血糖測定では、血糖値の連続的な変化まで把握することはできませんでした。持続グルコースモニタリングでは皮下に留置したセンサーで間質液中のブドウ糖濃度を連続的に測定することで、24時間の血糖値の動きを把握することができます。適応となる患者さんや、使用できる医療機関など条件はありますが、適切に活用することで、血糖管理状況や生活の質を高めるのに有用なツールであると考えられます。

特別企画1は『インスリン注入器使用時の「空打ち」の目的を知って実践しましょう』(P.17)です。使用する注入器が安全に動作するのかを自らが確認することはとても大切なことです。空打ちの目的と重要性を改めて認識して、実践してみてくださいね。

手洗い(手指衛生)などの徹底はもちろん、血糖コントロールを良好に保ち、十分な睡眠・栄養をとり、感染予防に努めていただければと思います。皆さまが笑顔で健康に新年度をスタートできるようお祈り申し上げます。

※会員の皆さまへ

この郵便物が届いた方は、2020年度つかさ会の会費が発生しておりますので、退会の場合はあらかじめご連絡ください。手違いがございましたらご容赦ください。

